

特別活動は発達支持的生徒指導の実践の要です

令和4年12月に新しい**生徒指導提要**が公表されました。なかでも注目すべきは**生徒指導の重層的支援構造**。その土台となる**発達支持的生徒指導**は、すべての子ども達を対象とし、子ども達の健全な発達を支援することで、結果的にいじめや不登校などの困難課題が起きにくくなります。そして、発達支持的生徒指導の**実践の要となるのは特別活動**です。生徒指導提要にも「生徒指導の充実を図るためには、学校全体の共通理解と取組が不可欠であり、生徒指導が学校全体として組織的、計画的に行われていくことが求められます。その中でも、特別活動は、各教科等の時間以上に生徒指導の機能が作用していると捉えることができます(60頁)」と記されています。

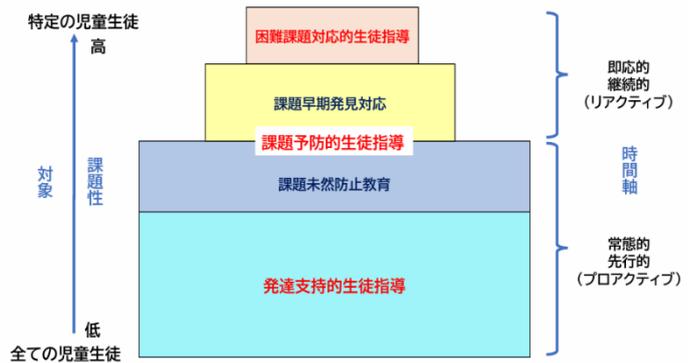


図1 生徒指導の重層的支援構造

出典:生徒指導提要(令和4年12月)19頁より

特別活動は、子どもが自分たちで考えたり協力したりする場面が豊富にあります。係活動、学級会、学校行事、クラブ活動、異年齢交流活動などは、生徒指導で重視する「人間関係形成」「自己理解」「自己決定」「社会的スキル習得」を体験的に学ぶ機会です。したがって、特別活動は、発達支持的生徒指導の基盤を充実させる教育活動であり、生徒指導の重層的支援構造全体を支える重要な手段となるのです。

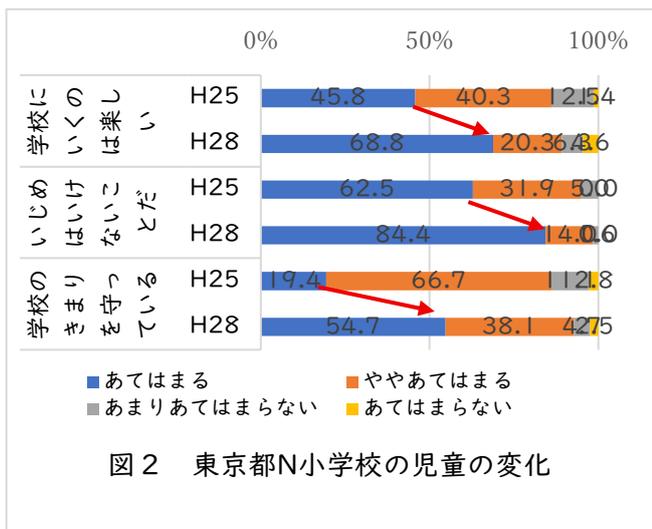


図2 東京都N小学校の児童の変化

特別活動の充実している学校では生徒指導上の課題が少なくなることは、多くの学校の実践事例や先行研究をみれば明らかです。例えば図2は特別活動に熱心に取り組んだ都内の小学校の子ども達の変化を示したグラフです。3年間の特別活動の充実のなかで、子ども達の**規範意識**が有意に高まっていること、そして「学校に行くのは楽しい」と答える子ども達の割合も増加していることが見て取れます。当時の校長先生によると、**不登校児童は激減し、学級崩壊はなくなり、いじめなどの児童間のトラブルも激減した**ということです。

特別活動を通して、安心・安全な学校生活を創りましょう